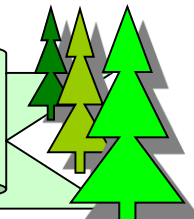




街路樹



「理科の授業改善の視点と実践例紹介」

9

月

「チャレンジホームの活動について」

各教科において、それぞれの教科ならではの「見方・考え方」があります。

例えば、右のお茶の絵を見て、どのような「見方」をしますか。社会科なら「このお茶の産地はどこだろうか」、美術科なら「このペットボトル使って何が作れるのか」など、いろいろな見方ができます。



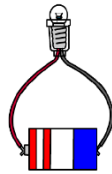
では、理科の「見方」は、どうでしょうか。「このお茶の成分は何か」「お茶の濃さ(濃度)はどのくらいなのか」などが考えられます。

理科の「見方」とは、「自然の事物・現象をどのような視点でとらえるか」ということであり、領域によりとらえる視点が変わっています。

- ①エネルギーの領域では、量的・関係的な視点
- ②粒子の領域では、質的・実体的な視点
- ③生命の領域では、多様性と共通性の視点
- ④地球の領域では、時間的・空間的な視点

それ以外にも、原因と結果の視点、部分と全体の視点、定性と定量の視点などがあります。また、①～④の視点は各領域固有のものではなく、他の領域にもありうる場合があります。

中学2年生の①エネルギーの領域で考えます。右の絵を見てどのような理科の「見方」が思いつきますか。量的な視点からは、「電圧の大きさはどのくらいか」、関係的な視点からは、「電圧を変えると豆電球の明るさはどうなるか」「電流と電圧にはどのような関係があるのか」などがあげられます。



この「見方」の次の段階は何でしょうか。先ほどの「電圧を変えると豆電球の明るさはどうなるのか」という「見方」を生徒がした場合、次に「どうすれば調べられるか」という疑問が起こり、「実際にやってみよう」となります。

「見方」は、課題を設定するための重要な視点となります。日頃から、子どもたちが理科の「見方」を働かせながら学んでいけるような授業を構想していくことも授業改善に繋がります。ぜひ、試してみてください。

チャレンジホームは、今年度新たに内郷公民館内に開所し、市内5カ所となりました。子どもたちは、週3日、生活スケジュールのもと、学習や読書、イラスト描きやボードゲームなどをして過ごしています。また、5つのチャレンジホームが集まって、合同行事(体験学習や学習会など)も実施しています。主な行事を2つ紹介します。

5月24日(金)には、いわき海浜自然の家で「わくわく自然体験活動」を実施しました。午前は舟戸海岸での磯遊びと魚釣りでした。磯に生息する生き物を観察する機会は少ないので、とても楽しそうな表情で、ウニやヒトデ、カニなどに直接触れたり、観察したりしていました。釣りをするのが初めてという子どもがほとんどで、餌の付け方や釣り方の指導を受けて釣り始めたものの、糸が絡まったり、岩に針が引っかかったりするなど苦労していました。しかし、子どもたちにとっては、それも貴重な体験となりました。午後はクラフト(草木染め)体験でした。白い生地にビー玉や割り箸を輪ゴムでくりつけ、各自がイメージした模様をつくり、草木液につけて染めていました。作業は楽しかったようで、自然と同じテーブルの子どもたち同士での会話が生まれ、完成したものをお互いに見せ合っていました。

6月14日(金)には、「すずかけ幼稚園での体験学習」と「SST(ソーシャルスキルトレーニング)」を実施しました。幼稚園の訪問では、最初は園児とどのように接してよいか分からなかったようですが、ゲームなどを通して、次第に関わり方に慣れ、短い時間でしたが園児と楽しく遊ぶ姿が見られました。SSTの活動では、他の教室の子どもたちと指導員とで好ましい人間関係づくりについて理解を深めながら、楽しく関わり合う時間を過ごすことができました。

普段の教室では体験できない活動を通して、人と人とのつながりや集団意識、勤労観・職業観を高めることができました。

10月以降も合同行事の開催を予定しています。



↑内郷チャレンジホーム



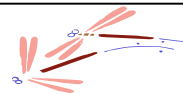
「新任常勤講師授業研修より」

8月20日(火)に、いわき市立平第五小学校を会場として「新任等常勤講師授業研修」を実施しました。午前は、経験者研修Ⅱ対象者が行う模擬授業に「児童生徒役」として参加し、その後、協議(質疑応答)を行いました。経験豊かな先生方の模擬授業を受けることで、授業の構成や提示する資料、子どもへの発問や立ち振る舞い、板書計画の大切さなど、たくさんの学びと刺激があったようです。

午後は、研修者自らが授業者として模擬授業を行いました。授業の対象が大人で、ICT機器が普段のように使用できないという環境の中での模擬授業でしたが、より「日常」に近い形で研修に取り組むことができました。

研修者の感想には「経験豊富な方の授業に参加させていただき、目からウロコの貴重な経験ができた」「自分の授業の直接的な欠点を知る機会となったため、今後の授業に役立てていきたい」といった今後の授業改善へ向けた前向きな声があがりました。

模擬授業を「授業改善・スキルアップのよい機会」ととらえ、一生懸命研修に臨む授業者の姿が大変印象的でした。本研修での学びをぜひ、現職教育への積極的な参加、日常的な互見授業の参観へとつなげていってほしいと思います。



【模擬授業の様子】